

多様な地域主体によるストリートデザイン・マネジメントに関する研究

その他のタイトル	Street Design Management Promoted with Collaboration of Local Governments and Communities
著者	三浦 詩乃
学位授与年月日	2015-09-25
URL	http://doi.org/10.15083/00073102

論文審査の結果の要旨

氏名 三浦 詩乃

近年、市街地の空洞化や衰退などが地方自治体の政策課題とされる中、市街地活性化に向けた歩行者の回遊性や移動性を向上させるため、既存道路の歩行者優先化・専用化、改修等の取組みが国内外の様々な都市で活発化している。一般に、道路等の公共空間は行政により管理されてきたが、その利活用や管理に対して地域の民間組織が主導的な役割を果たす事例も増えている中、道路の利活用や管理方法の体系化、および関連法制度の対応は都市計画学における課題となっている。

そこで、本研究は道路と沿道の土地利用まで含めた空間を「ストリート」として捉え、その再整備等のデザイン、および管理や利活用を含む一連の行為であるマネジメントについて、関連法制度や過去の事例の変遷の整理を通じ、取組みの体系化を進めると共に、事例分析を通じてその方法を論じた。その所見は下記の通りまとめられる。

第1章では、研究の背景、目的を提示すると共に、関連用語の定義、および本研究の位置づけを明確化した。

第2章では、戦後の我が国のストリートデザイン・マネジメントに関連する政策、法制度、先駆的な事例の変遷を整理すると共に、変遷を理解するために政策等の転換期を考慮した6つの時代区分を行い、取組みの変化と社会情勢の変化との対応関係の整理を通じて、その発展段階における特徴を明らかにした。また、長期的な変遷から今日の取組みに至る経緯を踏まえた現状の課題分析に基づき、沿道の空地の増加や市街地集約化の需要増が予測される中で今後の利活用向上のための条件を提示した。

第3章では、全国の観光ガイド資料等から169自治体におけるのべ373件のメインストリートを抽出し、空間的特徴に対するクラスター分析から11のタイプに類型化できることを示した。更に各類型別のデザイン・マネジメントの内容について、比較分析を通じ、各類型別の傾向と課題を明らかにした。

第4章では、1972年に日本初の歩行者専用道路として整備された旭川市平和通買物公園におけるデザイン・マネジメントを対象にして、その変遷を計画・整備後の管理運営、再整備、および再整備後の利活用の各段階別に整理し、合意形成、広域計画と地域経済・生活との関係、社会経済情勢の変化への対応の観点から見た各段階の特徴と課題を明らかにした。また、利活用の現況分析と利用者へのアンケート調査による評価を行い、得られた知見に基づき、継続的な歩行者専用道路のデザイン・マネジメントを行う際の留意点として、ストリート利活用の範囲に関係する「公共性」の定義、長い延長距離への対応、および民間組織間の協力関係構築の重要性を論じた。

第 5 章では、1970 年代より週末の歩行者天国化を実現してきた東京都心部における取組みを、定期的な交通規制を伴うストリートデザイン・マネジメントの代表的事例として捉え、その計画期と実施期間中の運営方法の特徴、および長年継続したケースにおける地域活動への効果と影響を明らかにした。更に、各ケーススタディより得られた知見から、地域民間組織による定期的な歩行者天国実施継続とストリートの利活用を促進する条件として、対象地選定と交通管理者の負担軽減、自治体による利活用の意義提示、来街者のアクティビティの制限要因への対策の 3 点を提示した。

第 6 章では、ストリートの広場的活用を伴うデザイン・マネジメントの代表的事例として、米国ニューヨーク市のプラザプログラムを対象として、まず同プログラムの運用段階に応じた組織体制と財源確保手法を整理した。次に、実施されたプラザ 56 件に関する文献調査や現地調査を通じて、それぞれの空間計画、立地条件、空間利活用の実態と傾向を把握すると共に、ストリートの広場的活用による影響や効果を明らかにした。また、同様のプログラムの我が国への応用可能性と導入のための課題について論じた。

第 7 章では、本研究で得られた結果と知見に基づき、多様な地域主体が連携してストリートデザイン・マネジメントを継続的に実施していく際に求められる配慮事項とその検証・評価方法を構築した。更にその方法の検証を通じて、地域社会が今後目指すべきストリートデザイン・マネジメント像を論じた。

第 8 章では、以上の章を通じて得られた知見を総括すると共に、地方自治体と民間組織が連携して取り組むストリートデザイン・マネジメントの方法と課題を整理し、今後の展望を論じた。

以上の研究成果は、市街地活性化や歩行者優先の環境改善に対する社会的需要が増加する中、都市空間を構成する主要な要素としてのストリートに着目し、多様な地域主体が連携して取り組むデザイン・マネジメントの役割と具体的手法を事例の検証により明らかにすると共に、その必要性和今後の展望を論じており、都市計画学に寄与するところが大きい。従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める。

以上 1,990 字